



# 第62期 中間報告書

平成23年4月1日～平成23年9月30日

日本アビオニクス株式会社

証券コード：6946



## Contents

ぐおあいさつ .....	1
セグメント別の概況 .....	3
トピックス .....	5
連結財務ハイライト .....	7
連結財務諸表 .....	8
会社の概要 .....	9
株式の状況 .....	10

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

ここに第62期上半期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の事業の概況等についてご報告申しあげます。

### ○ 上半期の業績について

当上半期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から緩やかに回復しているものの、今なおその影響が残る中で円高やデフレの長期化等により不透明な状況となりました。

当社グループを取り巻く事業環境は、スマートフォン等の小型携帯端末が堅調に推移し、アナログ放送の停止に伴う薄型テレビ等の駆け込み需要がありましたが、世界経済の先行き不透明感による景況感の悪化から民間設備投資および個人消費が伸び悩み、円高による輸出の鈍化等により厳しい状態で推移しました。

このような状況の中で、当社グループは、海外市場、特に新興国の開拓に向けた販売店の獲得、国内市場における太陽電池等の成長市場の開拓等を推進するとともに赤外線機器やプロジェクトの新製品を発売し売上高の確保に努めました。

この結果、当上半期における業績は、電子部品製造用の接合機器が大きく減少したことなどから売上高は135億90百万円（前年同期比8.7%減）となりました。

損益に関しましては、売上高の減少に伴い1億35百万円の営業損失（前年同期比3億22百万円悪化）、2億5百万円の経常損失（前年同期比3億53百万円悪化）、3億80百万円の間接純損失（前年同期比2億23百万円悪化）となりました。

### ○今後の見通しについて

---

日本政府の経済対策の効果が期待されるものの、円高の継続による企業収益の悪化等により引き続き厳しい状況となることが予想されます。当社グループを取り巻く事業環境は先行き不透明ではありますが、情報システムでは宇宙分野への取り組みの拡大、電子機器では新製品開発の着実な推進、プリント配線板ではものづくり改革による収益体質の改善、赤外線・計測機器では新製品のタイムリーな市場投入に取り組んでまいります。今後も市場創造型企業への転換を目指し、スピーディかつグローバルな事業展開および事業体質の改善・強化を当社グループ一丸となって邁進してまいります。

### ○中間配当について

---

当上半期の売上高が予想を下回り、経常損益、中間純損益ともに損失であったことから、まことに遺憾ながら見送らせていただきました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わりなきご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

代表取締役執行役員社長

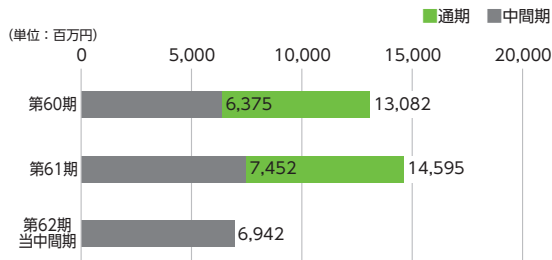
山下 守

# ○ セグメント別の概況

## ■ 情報システム

売上構成比：51%

### 情報システム連結売上高推移



情報システムは、大型プロジェクトの端境期により指揮・統制関連装置が大きく減少したことから、売上高は69億42百万円（前年同期比6.9%減）となりましたが、セグメント利益は、原価低減、費用削減等に努めた結果、6億79百万円（前年同期比3.7%増）となりました。



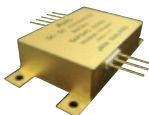
指揮・統制装置



表示・音響装置



電波応用装置



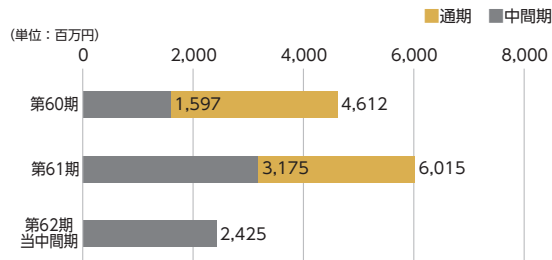
ハイブリッドIC

主要製品：誘導・搭載関連装置、表示・音響関連装置、指揮・統制関連装置、ハイブリッドIC

## ■ 電子機器

売上構成比：18%

### 電子機器連結売上高推移



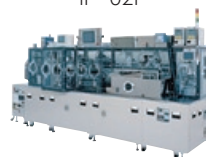
電子機器は、接合機器が、海外市場や成長市場の開拓を進めたものの、スマートフォン等の小型携帯端末用電子部品増産に対する設備投資が一巡したことからその需要が大幅に減少し、また、ビジネス向けプロジェクトが新製品を投入したものの、東日本大震災に伴う民間設備投資抑制の影響を受け低調となりました。この結果、売上高は24億25百万円（前年同期比23.6%減）となりました。セグメント利益は、売上高減少の影響により47百万円（前年同期比82.7%減）となりました。



iP-02P



紙とペンで、プロジェクトの表示画面に書き込み！



全自動シーム溶接機



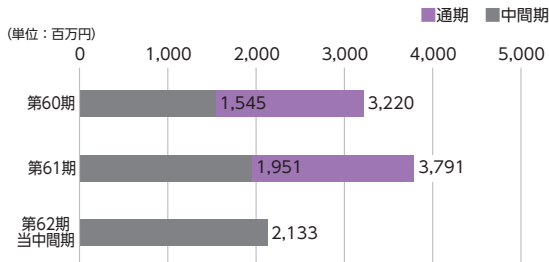
ER-50AE

主要製品：映像機器、情報福祉機器、接合機器

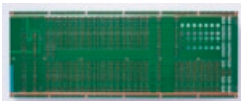
■プリント配線板

売上構成比：16%

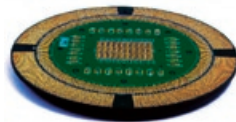
プリント配線板連結売上高推移



プリント配線板は、半導体試験装置市場において当社が得意とする高機能製品が増加し、また、既存顧客の深耕、新規顧客の獲得に努めた結果、売上高は21億33百万円（前年同期比9.3%増）となりました。セグメント利益は、売上高の増加に伴い87百万円（前年同期比14.3%増）となりました。



携帯電話基地局用バックボード



半導体プローブカード



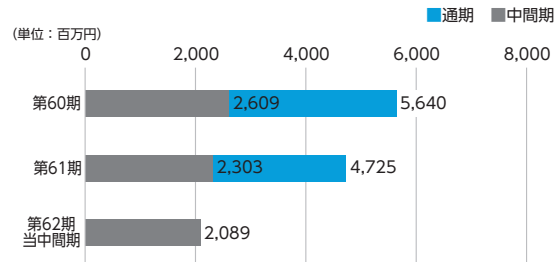
ピンインテストボード (ソケット面)

主要製品：プリント配線板

■赤外線・計測機器

売上構成比：15%

赤外線・計測機器連結売上高推移



赤外線・計測機器は、営業効率向上のため営業拠点の統廃合を進めるとともに海外および成長市場開拓に向けた営業体制の見直しを行い、また、セキュリティ市場等の成長市場に対し新製品の投入等を行うことによって売上の拡大を目指しましたが、東日本大震災の影響による民間設備投資の抑制、売価の下落、円高による輸出の減少の影響等から、売上高は20億89百万円（前年同期比9.3%減）となりました。セグメント損益は、売上高の減少の影響から3億71百万円の損失（前年同期比1億51百万円悪化）となりました。



赤外線モジュール  
C200/C250



ネットワーク対応  
サーモグラフィ S30



Thermo GEAR  
G100EX/G120EX

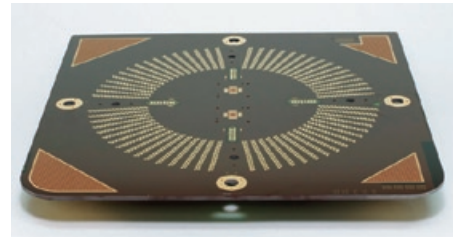


データアキュイジション装置  
RM1100

主要製品：赤外線機器、工業計測機器

## プリント配線板事業のご紹介

中期経営計画において特長事業として位置付けられているプリント配線板事業についてご紹介します。当社の得意とするプリント配線板 (Printed Wiring Board) (※1) は、多層プリント配線板 (Multi-Layered Board) です。社内ではその頭文字をとって、MLB事業と呼ばれています。



半導体検査用プリント配線板

携帯電話やパソコンといった身近な機器から、スーパーコンピュータやネットワークルータといった情報/通信機器、さらには、航空宇宙機器、防衛機器にいたるまで、あらゆる電子機器の電子回路を支えているのが、プリント配線板です。

当社は創業間もない昭和39年よりヒューズエアクラフト社からの技術導入のもと戦闘機搭載用両面スルーホール基板 (※2) の製造に着手しました。

以来47年にわたりプリント配線板メーカーの老舗として歴史を積み重ねてまいりました。

プリント配線板の製造は、子会社である山梨アビオニクス株式会社 (山梨県南アルプス市) にて行っております。山梨アビオニクス株式会社は、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の認定工場となっており、昨年7年ぶりに地球へ帰還した小惑星探査機「はやぶさ (MUSES-C)」にも当社製プリント配線板が搭載されていました。近年では電子機器が小型化、集約化、高性能化していくのにもとない、プリント配線板も、より高性能、高密度、高多層化へと日々進歩しています。



山梨アビオニクス株式会社



※1 プリント配線板とは…電子機器内で部品の載った緑色の板。

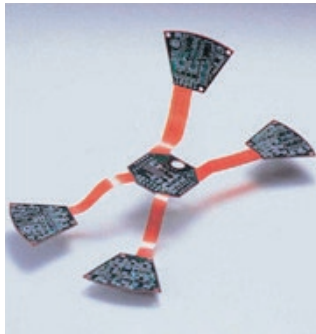
※2 両面スルーホール基板とは…貫通した穴により表面と裏面が通電する基板。スルーホールによって多層化が可能。

• Yamanashi Avionics Co.  
(Yamanashi, Japan; 40 years)

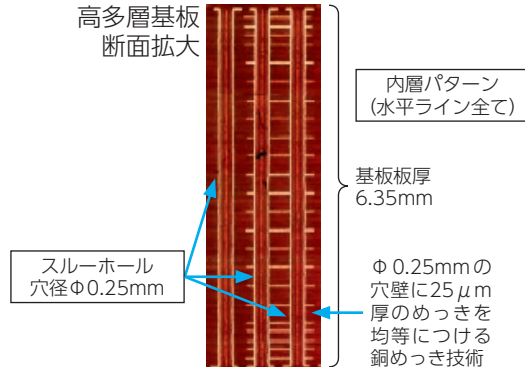
平成19年に山梨アビオニクス株式会社がIPC (米国電子回路協会) により40周年永年表彰され、その発行誌に掲載されました。

## プリント配線板事業の特長

- 航空機／人工衛星搭載で長年培われた高信頼性技術を全プリント配線板製品に生かしています。
- 半導体ウエハーテスト用プローブカードに代表される高板厚／超高多層配線板が得意分野です。
- 膨大な演算を瞬時に行うスーパーコンピュータに使用される高密度／高精細配線板も提供しています。
- 多品種生産でありながら極めて短期間での製造対応はお客様からご好評いただいております。



高信頼性配線板



スーパーコンピュータ SX-9  
NEC様ご提供

## 今後の取り組み

最先端の高信頼性プリント配線板を最短納期でお客様へ提供し、戦略的投資とものづくり改革を進めることにより、安定成長を目指して事業基盤の強化をはかります。

### プリント配線板事業 主要市場

宇宙／防衛

半導体検査

情報／通信

産業

#### 戦略的投資

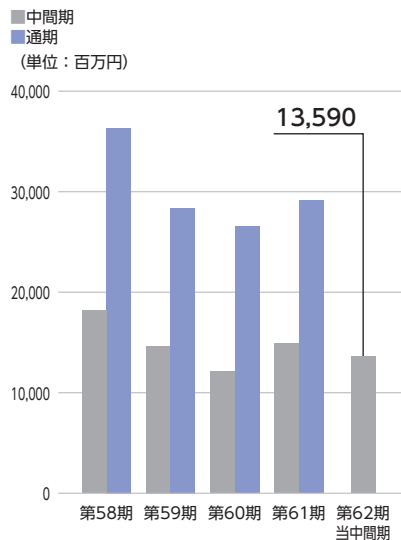
- ・新製品開発促進
- ・生産効率向上

#### 安定成長・高収益

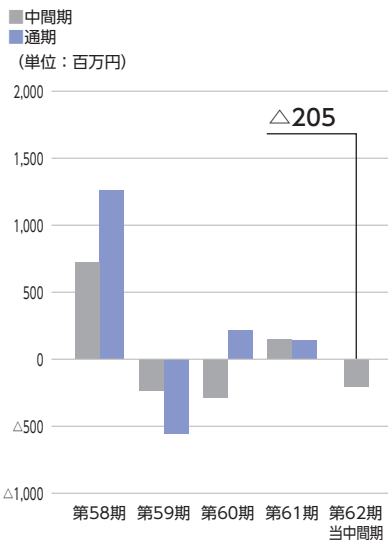
#### ものづくり改革

- ・工期短縮
- ・コスト低減

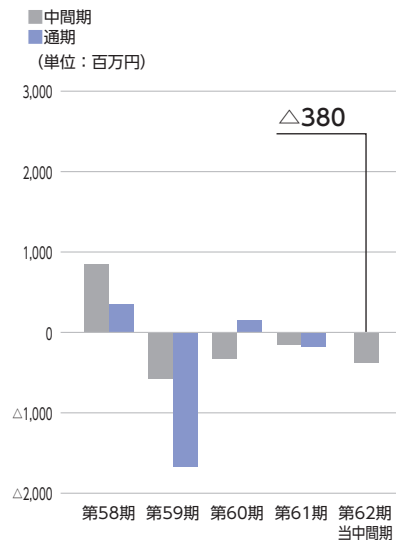
### 連結売上高推移



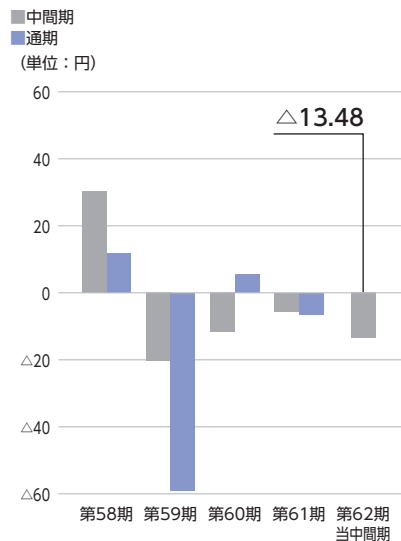
### 連結経常利益推移



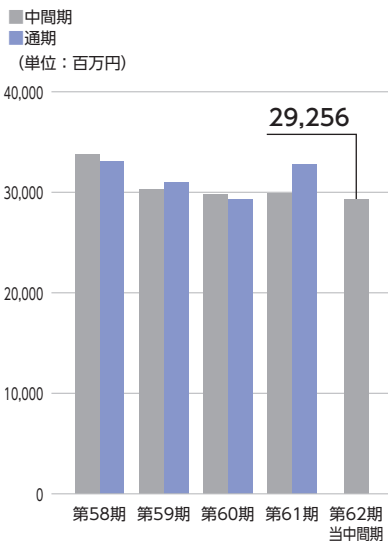
### 連結純利益推移



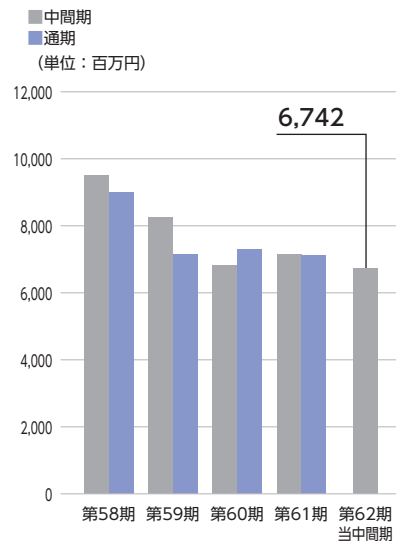
### 連結1株当たり純利益推移



### 連結総資産推移



### 連結純資産推移





中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目 (資産の部)	期別		科目 (負債の部)	期別	
	当中間期 平成23年9月30日現在	前 期 平成23年3月31日現在		当中間期 平成23年9月30日現在	前 期 平成23年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>19,294</b>	<b>22,394</b>	<b>流動負債</b>	<b>12,578</b>	<b>15,025</b>
現金および預金	2,813	3,888	支払手形および買掛金	4,557	4,685
受取手形および売掛金	8,691	10,187	短期借入金	5,334	6,400
たな卸資産	6,841	7,388	未払法人税等	189	637
その他	950	933	賞与引当金	757	1,009
貸倒引当金	△ 2	△ 3	工事損失引当金	-	22
<b>固定資産</b>	<b>9,962</b>	<b>10,357</b>	製品保証引当金	122	164
<b>有形固定資産</b>	<b>7,408</b>	<b>7,633</b>	その他	1,618	2,106
建物および構築物(純額)	1,815	1,896	<b>固定負債</b>	<b>9,935</b>	<b>10,602</b>
土地	4,847	4,847	長期借入金	3,640	4,560
その他(純額)	745	889	再評価に係る繰延税金負債	1,321	1,321
<b>無形固定資産</b>	<b>274</b>	<b>338</b>	退職給付引当金	4,946	4,694
投資その他の資産	2,278	2,385	その他	26	26
前払年金費用	1,347	1,433	<b>負債合計</b> ※2	<b>22,514</b>	<b>25,628</b>
その他	990	1,010	(純資産の部)		
貸倒引当金	△ 59	△ 59	<b>株主資本</b>	<b>4,932</b>	<b>5,313</b>
<b>資産合計</b> ※1	<b>29,256</b>	<b>32,751</b>	資本金	5,145	5,145
			利益剰余金	△ 201	179
			自己株式	△ 11	△ 11
			その他の包括利益累計額	1,809	1,809
			土地再評価差額金	1,809	1,809
			為替換算調整勘定	0	-
			<b>純資産合計</b>	<b>6,742</b>	<b>7,123</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>29,256</b>	<b>32,751</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	
	当中間期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	前中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日
売上	13,590	14,883
売上原価	10,310	11,296
販売費および一般管理費	3,280	3,586
営業利益または営業損失(△)	3,415	3,399
営業外収益	△ 135	186
受取手数料	27	53
助成金の収入	11	11
その他	3	29
営業外費用	13	12
支払利息	97	91
その他	84	86
経常利益または経常損失(△)※3	13	5
特別損失	205	147
固定資産売却損	1	22
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1	2
税金等調整前中間純利益または税金等調整前中間純損失(△)	-	20
法人税等	△ 206	125
少数株主損益調整前中間純損失(△)	174	282
中間純損失(△)※4	△ 380	△ 157

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書※5

(単位：百万円)

科目	期別	
	当中間期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	前中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,152	1,472
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 239	△ 187
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,986	△ 1,336
現金および現金同等物に 係る換算差額	△ 0	-
現金および現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 1,074	△ 51
現金および現金同等物の 期首残高	3,888	2,435
現金および現金同等物の 中間期末残高	2,813	2,383

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

※1 資産合計

受取手形および売掛金の減少等により資産合計は前期比34億95百万円減少の292億56百万円となりました。

※2 負債合計

借入金の返済等により負債合計は、前期比31億14百万円減少の225億14百万円となりました。

※3 経常利益または経常損失

売上高の減少等により前年同期比3億53百万円の悪化となりました。

※4 中間純損失

売上高の減少に伴う経常損失等の計上により前年同期比2億23百万円の悪化となりました。

※5 中間連結キャッシュ・フロー計算書

売上債権の減少等によりフリー・キャッシュ・フローは、9億12百万円となりました。

商号 日本アビオニクス株式会社  
 英文商号 Nippon Avionics Co., Ltd.  
 設立 昭和35年4月8日  
 資本金 51億45百万円  
 従業員数 1,335名(連結)  
 744名(単独)

証券コード 6946

役員 の 状 況

取 締 役

代表取締役	山 下 守
取締役	川 島 幸
取締役	関 雅 芳
取締役	露 木 満
取締役	齊 藤 幸 夫
取締役	西 村 知 典
取締役	清 田 瞭

(注) 西村知典および清田瞭の両氏は、社外取締役であります。

監 査 役

監査役(常勤)	石 川 俊 樹
監査役(常勤)	清 水 敏 夫
監 査 役	山 本 徳 男
監 査 役	古 川 久 生

(注) 山本徳男および古川久生の両氏は、社外監査役であります。

執 行 役 員

執行役員社長	山 下 守 ※
執行役員常務	川 島 幸 雄 ※
執行役員	関 雅 芳 ※
執行役員	露 木 満 ※
執行役員	小松原 成 介 ※
執行役員	池 田 功 夫 ※
執行役員	齊 藤 幸 夫 ※
執行役員	山 崎 洋 一
執行役員	井 川 裕 三

(注1) ※の執行役員は、取締役を兼務しております。

(注2) 10月1日より土川稔氏が新たに就任しております。

## ■ 拠点および事業所

### 日本アビオニクス株式会社

本 社 東京都品川区西五反田八丁目1番5号  
 横浜事業所 横浜市瀬谷区本郷二丁目28番2  
 新横浜事業所 横浜市都筑区池辺町4206番地  
 府中支店 東京都府中市府中町一丁目10番地の3  
 名古屋支店 名古屋市中区丸の内三丁目17番6号  
 大阪支店 大阪市淀川区西中島一丁目11番16号  
 福岡支店 福岡市博多区博多駅中央街8番36号  
 甲府営業所 山梨県南アルプス市宮沢568番地  
 熊谷営業所 埼玉県熊谷市筑波三丁目4

## ■ 子会社

### 山梨アビオニクス株式会社

山梨県南アルプス市宮沢568番地

### 福島アビオニクス株式会社

福島県郡山市待池台一丁目20番地

### 日本アビオニクス販売株式会社

東京都品川区西五反田八丁目1番5号

### NEC Avio赤外線テクノロジー株式会社

東京都品川区西五反田八丁目1番5号

### SOLTEC, INC.

12977 Arroyo Street. San Fernando, CA U.S.A.

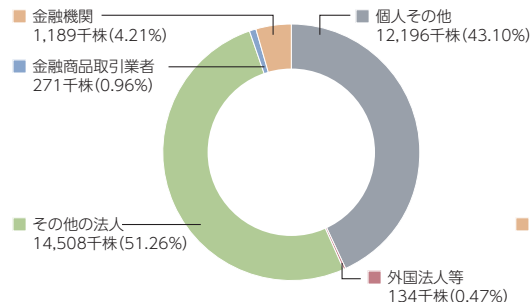
(1) 発行可能株式総数	普通株式	80,000千株
	第1種優先株式	76,000千株 4,000千株
(2) 発行済株式の総数	普通株式	29,100千株
	第1種優先株式	28,300千株 800千株
(3) 株主数	普通株式	3,692名
	第1種優先株式	1名

(注) 第1種優先株式は、日本電気株式会社が全株所有しております。

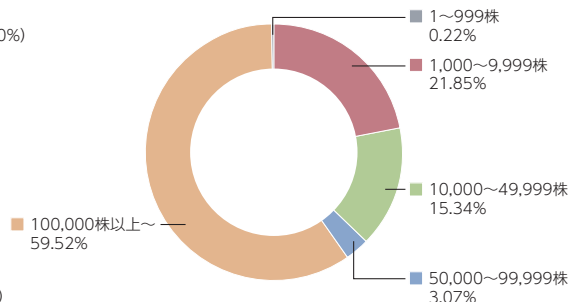
(4) 大株主の状況 (普通株式上位10名)

株主名	所有株式数	持株比率
	千株	%
日本電気株式会社	14,151	50.00
日本アビオニクス従業員持株会	616	2.18
株式会社三井住友銀行	441	1.56
住友信託銀行株式会社	249	0.88
伊藤豊	220	0.78
住友生命保険相互会社	218	0.77
松島敏雄	210	0.74
三井住友海上火災保険株式会社	161	0.57
吉川勝敏	127	0.45
マネックス証券株式会社	120	0.42

(5) 所有者別分布の状況 (普通株式)



(6) 所有株数別の状況 (普通株式)



## 株 主 メ モ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
その他必要のあるときはあらかじめ公告します。
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先)  
(電話照会先) ☎0120-176-417  
(インターネットホームページ) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 公告の方法 当社のホームページに掲載します。  
<http://www.avio.co.jp/ir/index.htm>  
ただし、電子公告を行うことができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

## 当社ホームページのご案内

ホームページにて最新のIR情報等をご覧いただけます。



### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡下さい。

### 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。



〒141-0031 東京都品川区西五反田八丁目1番5号  
TEL. 03-5436-0600 <http://www.avio.co.jp>

